

2021年度
第21回
さわやかジュニア大会
大会規定

さわやかジュニア連盟

第21回 さわやかジュニア大会 大会規定

1. 大会

- ① 朝霞市・志木市・新座市・和光市の四市内に在籍する少年野球チームの小学四年生以下の男女とする。
- ② 大会参加費は各チーム5,000円とし、代表者会議当日に納付とする。
- ③ 大会は予選ブロック・リーグ戦、決勝トーナメント方式で行う。
- ④ 開会式は行わない。閉会式は表彰のみを簡易に行う。
- ⑤ 大会参加全チームにより抽選を行い、予選ブロック組合せを決定する。
- ⑥ 試合の全般的なルールは、原則として「公認野球規約・学童の部」を採用するが、別にさわやかジュニア野球連盟の特別規則、及び各グラウンド毎のローカルルールを適用する。
- ⑦ 大会運営、および大会中の問合せ・確認等については、ブロック責任者に行う。
- ⑧ 四市以外のチームの参加については、連盟の許可を得て参加とする。

2. 表彰

- ① 優勝チーム 『さわやかジュニア大会』優勝旗
「優勝カップ」「賞状」及び、「金メダル」15個
- ② 準優勝チーム 「準優勝カップ」「賞状」及び、「銀メダル」15個
- ③ 3位(2)チーム 「第3位カップ」「賞状」及び、「銅メダル」15個

3. 登録名簿

- ① 大会選手登録は20名以内とし、登録名簿を3部作成し提出し、抽選会当日に大会委員の確認押印後、1部をチームの控えとする。
- ② 「選手登録名簿」1部をチーム保管として会場に必ず持参し、試合開始前に相互交換する。
- ③ 登録時点でチーム編成が出来ない場合には、同一市町村の9名未満の複数チームが統合して出場する事を認める。合同チームと呼ぶ。
- ④ 合同チームに於いて、ユニフォームは混在でも構わないが背番号は連番とする。

4. チームの義務

- ① 会場となるグラウンドの使用は利用方法を順守し、試合終了後はグラウンド整備をすること。
- ② 閉会式は上位4チームが参加し、プラカードを持参すること。
- ③ 大会本部は、投球数カウント測定の為のサポート要員の派遣を対戦相互チームに要請した場合は対応する事。

5. 審判に関する確認事項

予選リーグ/準々決勝戦に於いて、大会要綱による参加チームの相互審判制度を採用する。

- ① 1チーム2名のチーム審判員を出すこと。(チームが棄権した場合も必ず出すこと)
- ② 本部決勝トーナメント(準決勝以上)は当連盟審判部より派遣を行う。
- ③ 審判員は、審判服、及び審判帽の着用を義務付ける。
- ④ 審判員は、試合開始時刻の30分前に集合すること。
- ⑤ 最終試合の審判員は、グラウンド整備をして帰るようお願いします。
- ⑥ 当日の朝、雨天等による決行、又は中止の判断について
*大会開始の判断は2時間前までにを行い、当該チームに連絡する。

- ⑦ グラウンドに集合した後での雨天等による中止、又は続行の判断は、担当の審判員とグラウンド責任者が合議で決定する。
試合途中の場合は、両チームの監督の意見を聴取してはならない。
- ⑧ 審判員は、必ず当該グラウンド責任者にグラウンドルールを確認し、両チームの監督に伝え徹底する。
- ⑨ 審判は、組合せ表の若番が主審・二塁、老番が一塁・三塁とする。

6. 野球場について

- ① 野球場については、小学校の場合は諸々の障害物があり、広さも一様ではないため、各会場毎にローカルルールを採用する。
但し、基本的なグラウンド寸法については、正確にラインを引くこととする。
- ② グラウンド責任者は、グラウンドについての諸注意が有る場合（ローカルルールを含む）は、その内容を試合前に担当審判員に伝える。
- ③ ファウルラインは出来るだけ長く引く。
- ④ ファウルラインが障害物を避けて引いてある場合、審判員は試合前に確認し、両チームの監督にも説明を行う。
- ⑤ グラウンドにロープが張ってある場合、特にベース付近では危険防止の為ロープを埋めるなどの処置をして安全を期する。

7. 競技運営に関する確認事項

- ① 連盟の規定、及び大会規則を遵守し、大会運営を円滑に進行させる。
- ② 大会中の連絡は、大会責任者に連絡のこと。
- ③ [グラウンド規格]
 - *塁間距離 21メートル
 - *投手板から本塁までの距離 14メートル
- ④ イニングと試合時間 6イニング 若しくは 1時間30分
- ⑤ 試合球 KENKOボールJ球を使用。 2個ずつ提出する。
- ⑥ [選手登録]
 - 20名以内、4年生まで
 - *登録選手と登録 20名以内、4年生まで
 - *ユニフォームと背番号 監督:30、コーチ:29・28
選手:主将10、0～27までとする
- ⑦ 点差によるコールドゲーム
 - 3回 15点
 - 4回 10点
- ⑧ 同点の場合
 - 同点の場合、6回終了時、若しくは試合開始90分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
 - サドンデス方式(2イニングまで)で勝敗を決定する。
- ⑨ サドンデス方式（全日本軟式野球連盟 延長戦に関するルール）
 - 継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、順次前の打者を2塁走者・3塁走者として無死満塁の状態ですべて2イニングを行い、得点の多いチームを勝者とする。
 - それでもなお勝敗が決しない場合は、「引分け」とする。
- ⑩ 「60球投球規制」を採用(当該打者が出塁、又はバッターアウトになるまでの投球は可)します。
- ⑪ 申告敬遠制度を採用します。
- ⑫ 試合の成立は、両チームが均等に3回終了、若しくは試合時間が60分を経過した時点。
- ⑬ 試合開始時刻は指示された時間を厳守し、集合は試合開始30分前とする。

- ⑭ ベンチ(石灰で明示された)内に入るのは、監督(背番号30番)・コーチ(背番号28・29番)
*代表・スコアラーの5名、及び登録された選手(主将10番を含む0番から27番)のみとする。
*監督・コーチ(28・29)・代表・スコアラー以外のコーチや父兄のベンチ入りを禁止します。
監督(30)不在の時は、29番又は28番のコーチが監督を代行する。
但し、試合前に審判に届ける事。
- ⑮ インフィールドルールを採用。
- ⑯ ベンチは組合せ表の若番が1塁側、老番が3塁側とする。
但し、公式球場では大会本部の指示に従う。
- ⑰ 父兄の応援席はベンチより外野側とする(ベンチ後方は禁止、但しグラウンド状況により判断)。
- ⑱ 指導者、及び応援席の父兄による相手選手へのヤジは、内容を問わず禁止する。
誘いボーク等、選手を惑わす言動があった場合は、一度目は注意、二度目は監督退場とする。
- ⑲ ランナーは、ホームイン後ベンチ入りするまでベースコーチ、次打者との接触は一切禁止する。(ハイタッチ等) (罰則規定①項)
- ⑳ 試合の成立は、両チームが均等に3回終了、若しくは試合時間が60分を経過した時点。
試合途中の降雨、又は日没で中止した場合、これを基準にコールドゲームを宣言する。
- ㉑ 小学校では、全面「禁煙」です。グラウンド責任者の指示に従って下さい。

8. ルールの確認について

- ① 投手の牽制球について
投手の牽制球が悪送球等により送球がボールデットラインを越えた場合
⇒投手がプレートを踏んでいる・いないに関わらず、走者にワンベースの進塁権を与える。
- ② ランダムプレーについて
ランダムプレー中に悪送球等により送球がボールデットラインを越えた場合
⇒その走者がそのプレーが行われる直前に占有していた塁を基準として、走者に2ヶの進塁権を与える。
- ③ ボークについて
ボークは、1回目は注意とし、それ以降は各審判の判断とする。
但し、明らかにボークの場合はこの限りではない(1回目からボーク)。
(解説) 例えば、
(1)送球の際に方が動いた、あるいはセットポジションの際静止がない…等
⇒1回目は注意とする。
(2)投球動作に入ってからボールを落とした、あるいは投球動作を中止した…等
⇒ただちにボークを宣言する。
- ④ タイムについて
監督が同一イニングに同一投手を2回呼ぶか、伝令を使うか、保守又は他の選手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。但し他の位置に就く事は許される。
尚、他の守備位置に就いた場合は、同一イニング内に再び投手に戻れる。
- ⑤ 捕手を含む内野手が1試合に投手の所に行ける回数は3回までとする。
(但し、監督と共に言った場合は除く)
尚、延長戦(特別延長戦)になった場合は、2イニングス1回とする。
- ⑥ 監督の指示はグラウンドに出て指示する事ができる。監督はマウンドへの行帰りは小走りでスピーディーに行う。

⑦ ナチュラルカーブについて

1度目の注意で治らない場合は、投手交代とする。

⑧ ボールデットライン付近の飛球を捕球した場合について

(1)野手の捕球位置が片足でもボールデットラインを越えてしまった場合は、捕球とみなされずファールボールとする。

(2)ラインの内側で捕球後、勢いでボールデットラインを越えてしまった場合はインプレーとし

通常の野球規則を適用する。飛球をラインの内側で捕球後、ラインを越えて倒れ込み送球動作が不可能になった場合は、打者はアウト、走者はその位置を基準として各走者に1個の塁が与えられる。

⑨ 試合中に雷が発生した場合の処置

連盟役員・審判員は、直ちに試合を中止して全員を避難させる。尚、遠くに雷が発生した場合でも、状況を判断して危険のない場所に避難させること。

木製バットによる試合継続は禁止とする。

⑩ 投手の準備投球は、初回(救援を含む)に限り7球以内(1分を限度とする)、次回より3球以内とする。同一投手の再登板は5球以内とする。

9. 特別注意事項

① 試合開始前のノックはシートノックのみとする。ノックするコーチは必ずユニフォームを着用とする。

② バッティンググローブは着用可。但しリストバンドは不可とする。

③ 投手について手袋、サポーターなどの使用を禁止する。なお負傷等での包帯・テーピング等必要な場合は、試合前審判に申し出て許可を得る。

④ ウェーティングサークルにマスコットバット及び素振り用パイプ、リングは禁止とする。

⑤ 各市会場の基準のホームベースで行う。本球場など予めホームベースが固定されている場合は、そのベースを適用する。

⑥ ユニフォームのズボンにストッキングが3分の2以上見えるようにきちんとはく。

捕手は投手の準備投球も含め、防具を着用すること。(マスク・プロテクター・レガース・ヘルメット)、捕手用具は原則として2セット用意すること。

⑦ あまりにインターバルが長かったり、無用な牽制が度を過ぎるとペナルティーを課すことがある。(審判の判断による)(罰則規定①項)

⑧ 事故防止の為にキャッチャーのファウルカップの着用を推奨します。

10. 罰則規定

① 各確認事項の条項に違反した場合は、次戦の試合の監督のベンチ入りを認めず、代理監督(登録された背番号29番、又は28番のコーチ)で試合を行う。

□ 補足

平成27年9月5日をもって施行する

令和3年10月10日 改訂

